

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月31日現在

機関番号：17701

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2012

課題番号：22530673

研究課題名（和文） 児童・生徒の仲間集団の排他性に関する研究

研究課題名（英文） The study of peer group exclusivity in pupils

研究代表者

有倉 巳幸 (YUKURA MIYUKI)

鹿児島大学・教育学部・教授

研究者番号：90281550

研究成果の概要（和文）：

本研究は、児童・生徒の仲間集団の排他性について、自身の排他性欲求と所属集団の排他性行動規範の認知という2つの指標を取り上げた。この2つの要因が学級集団及び所属集団への適応感、学習意欲などに及ぼす影響について検討を行った。複数の調査および実験を行った結果、排他性欲求は適応感や学習意欲を高め、逆に排他性規範は低める傾向が示唆された。ただし、これらの結果は、校種や性が媒介要因として機能しており、一貫していなかった。

研究成果の概要（英文）：

This research took up two indices about the peer group exclusivity of pupils. One is pupil's own exclusivity desire, and the other is cognition of exclusive ethic in the peer group which they belong to. Examination was performed about the influence which these two factors have on a feeling of adaptation to the class and the peer group, motivation for learning, etc.

As a result of conducting two or more investigations and experiments, it suggested that their exclusivity desire tended to raise a feeling of adaptation, and motivation for learning, and their exclusive ethic tended to lower, conversely. However, school stage and sex were functioning as a mediation factor, and these results were not consistent.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・社会心理学

キーワード：児童・生徒の仲間集団, 排他性欲求, 排他性規範, 学級適応感, 学習意欲

## 1. 研究開始当初の背景

本研究では、思春期の友人関係、特に女子の友人関係に見られる排他性が、所属する仲間集団や学級の適応感に及ぼす影響を検討する。この問題に焦点を当てることによって、いじめや不登校につながる友人関係の特徴の一端を解明できる。また、本研究の成果によって、学校現場の教師に本知見を踏まえた適切なコンサルテーションができると考える。

## 2. 研究の目的

### (1) 仲間関係の排他性規範の強さと学級及び所属集団への適応感の関連性

排他性欲求及び排他性規範の強さと、学級集団及び所属集団の適応感の間に関連性が見られるのか、発達的な見地から小学生から高校生を対象に調査を行う。

### (2) 仲間関係の排他性を強める要因の検討

排他性を強めることは、親密な関係を作る上で必要なことであり、発達的な課題でもあるが、その一方で、対等であるはずの友人関係に生じる非対等な関係性が、排他的な関係形成に影響していると思われる。集団の魅力や影響力、社会的動機づけといった要因を取り上げ、このメカニズムを明らかにする。

### (3) 仲間関係の排他性と学習意欲に関するモデルの検討

先行研究や(1)と(2)の知見を踏まえ、友人関係の排他性の強さが、どのようなプロセスを経て、学習への自己評価や学習意欲に影響を及ぼすのか、そのプロセスについて検討する。

## 3. 研究の方法

### (1) 児童・生徒の仲間集団の排他性に関する調査 (研究 1, 2)

小学校5年生から高校3年生までを対象に、排他性欲求及び排他性規範と、学級及び所属集団への適応感との関連性を検討するため

に、排他性尺度を作成し、調査を実施した。

### (2) 架空場面を用いた仲間集団の排他性に関する実験的検討 (研究 3, 4)

中学生及び教師を対象に、排他性欲求及び排他性規範を操作したシナリオ実験を行った。従属変数としては、学級及び所属集団への適応感、集団内地位やいじめの起こりやすさの認知を測定した。

### (3) 仲間集団の排他性の強さに及ぼす社会的動機づけや所属集団の影響力認知の影響についての検討 (研究 5)

中学生、高校生を対象に、社会的動機づけ及び所属集団の魅力や影響力の強さが、排他性欲求及び排他性規範の強さに及ぼす影響について、排他性尺度を見直し、調査を実施した。

### (4) 生徒の仲間集団の排他性が学習意欲に及ぼす影響についての検討 (研究 6)

中学生、高校生を対象に、排他性欲求及び排他性規範の強さが、学習意欲（自ら学ぶ意欲の欲求・動機）に及ぼす影響について調査を実施した。

## 4. 研究成果

### (1) 仲間集団の排他性欲求と排他性規範と学級及び所属集団への適応感の関係

研究 1, 2 における調査の結果、総じて排

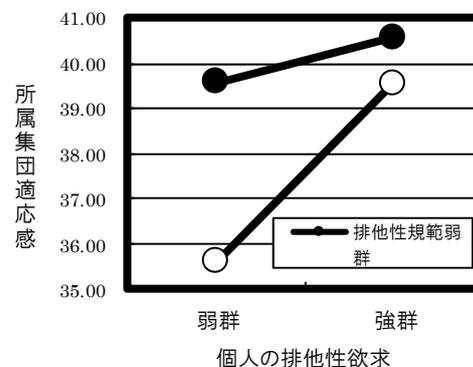


図1 所属集団適応感に及ぼす排他性の影響

排他性欲求の強さは、所属集団への適応感を高

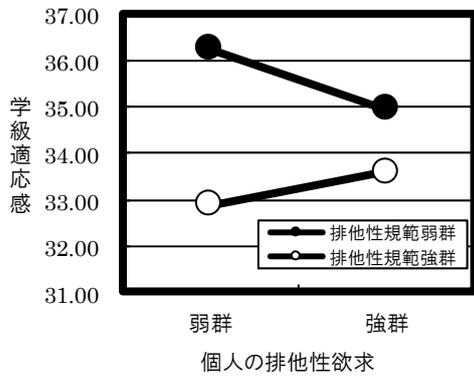


図2 学級適応感に及ぼす排他性の影響

め、排他性規範の強さは、学級への適応感を低めていた。また、排他性欲求が弱く排他性規範が強い児童・生徒の所属集団への適応感が他の3群よりも低く、これらの児童・生徒が学級及び所属集団で強いストレスにさらされていることが示唆された（図1, 2）。

## (2) シナリオ実験による検討

研究3では、研究1, 2の知見について架空場面を用いたシナリオ実験によって検討

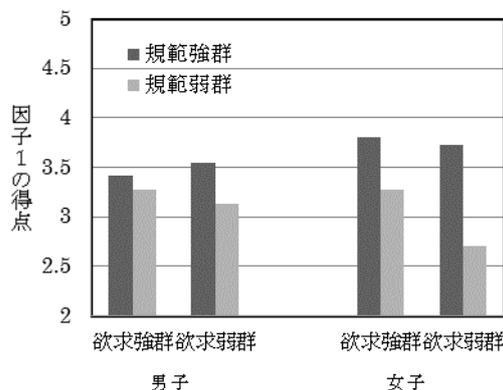


図3 排他性がいじめ及び集団内の地位評価（因子1）に及ぼす影響

を行ったところ、同様の結果が得られた。また、所属集団での地位やいじめの起こりやすさについて検討したところ、排他性規範の強い集団では、集団内に地位の差が生まれやすいこと、いじめが起るといじめる側への同調が起こりやすいと生徒が考えていることが明らかとなった（図3）。

研究4では、同様のシナリオ実験を、教師を対象に実施した。その結果、生徒の結果と

ほぼ同じであった。しかし、生徒が、排他性規範が強かつ排他性欲求が弱い場合のみ、所属集団への適応感が低いとしていたのに対して、教師は排他性規範が弱かつ排他性欲求が弱い場合以外は、所属集団への適応感が低くなると考えていた。この結果は、同じシナリオ実験を用いていることを考えると視点ではなく、立場によって生じる違いと解釈した。

## (3) 仲間集団の排他性の強さに及ぼす社会的動機づけや所属集団の影響力認知の影響についての検討

研究5では、社会的動機づけが排他性の2つの指標に及ぼす影響について検討を行ったところ、概して接近的動機づけが排他性欲求を、回避的動機づけが排他性規範を予測していた。また、集団の影響力、性ごとに同様の分析を行ったところ、影響力の強さによって、接近的動機づけ及び回避的動機づけが排他性欲求や排他性規範に及ぼす影響が異なっていた。このことは学級集団内における所属集団の地位がこれらの関係を媒介していることが示唆された。

## (4) 生徒の仲間集団の排他性が学習意欲に及ぼす影響についての検討（研究6）

排他性の2つの指標が学習意欲（自ら学ぶ意欲の欲求・動機）に及ぼす影響を検討するため、共分散構造分析を用いた。その結果、排他性の2つの指標は、学校生活時間内の感情頻度を介して自ら学ぶ意欲の欲求・動機に影響を及ぼしていた（図4）。

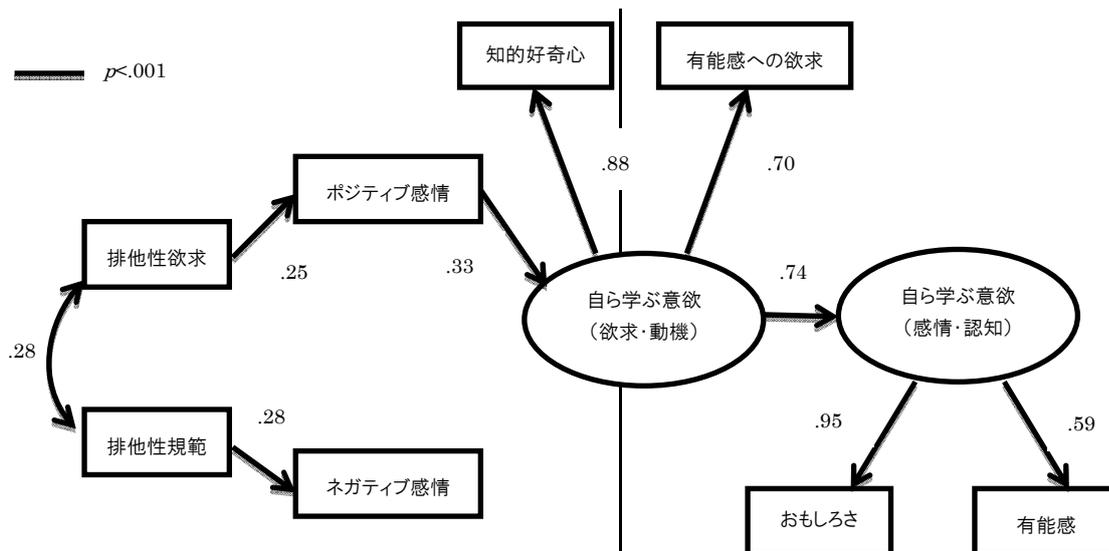


図4 排他性が自ら学ぶ意欲に及ぼすモデル (中学生男子)

5. 主な発表論文等

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- (1) 有倉巳幸 (2012a). 中学生の仲間集団の排他性に関する研究, 鹿児島大学教育学部研究紀要(教育科学編), **63**, 29-41 (査読なし).
- (2) 有倉巳幸 (2011c). 生徒の仲間集団の排他性に関する研究 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要, 21, 161-172 (査読なし).

[学会発表] (計4件)

- (1) 有倉巳幸 (2012c). 生徒の仲間集団の排他性に関する研究(1) 日本教育心理学会第54回総会発表論文集, 681. (2012年11月25日)
- (2) 有倉巳幸 (2012b). 生徒の仲間集団の排他性に関する研究(2) 日本社会心理学会第53回大会発表論文集, 147. (2012年11月18日)
- (3) 有倉巳幸 (2011b). 仲間集団の排他性

尺度作成の試み 九州心理学会第71回大会発表論文集, 51. (2011年11月20日)

- (4) 有倉巳幸 (2011a). 中学生の仲間集団の排他性に関する研究 日本教育心理学会第53回総会発表論文集, 147. (2011年7月24日)

[その他]

- (1) 有倉巳幸 (2013). 児童・生徒の仲間集団の排他性に関する研究 平成22~24年度科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究成果報告書 (全81頁)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

有倉 巳幸(YUKURA MIYUKI)  
鹿児島大学・教育学部・教授  
研究者番号: 90281550